

## 京大中村秀仁助教が主導「Nプロジェクト」 米国建国250周年事業で総領事館との連携深化

京都大学の中村秀仁助教が主導する「Nプロジェクト」(通称:Nプロ)が、在大阪・神戸米国総領事館との連携を本格化させ、従来の枠組みを超えた先進的な成果を上げています。Nプロは街頭での対話を通じて高校生に社会参加を促す取り組みで、生徒が本来持つ主体性を開花させるモデルとして、熱い注目を集めている。その効果は、単なる専門知識の習得だけに留まらない。これまで他者と話すことが難しかった生徒が積極的に対話へ踏み出し、不登校気味だった生徒が再び自発的に教室へと足を向け始める。現代の教育現場が

抱える根深い課題に対して、具体的かつ劇的な解決策を次々と創出している例は極めて稀だ。中村助教によると、現場で生徒のひたむきな姿や成長を目の当たりにした教員や、家庭での確かな変化を実感した保護者が、涙を流して喜ぶ事例が相次いでいるという。

この価値にいち早く目をつけたのが、在大阪・神戸米国総領事館だった。文部科学省が昨年、大阪・関西万博で主催した科学イベントを契機に両者の連携は一段と深化。米国建国250周年という国家的な節目を迎え、その記念事業を兼ねる形でNプロとの並走体制を築いた。今春にはNプロの活動拠点である大阪高等学校の新入生674名に対し、同領事館の殿塚ケント広報部オフィスマネージャーが米国の最新科学を紹介した。

科学を通じた国際的な対話の広がり、今後は高校生の手を経て、地域の6つの公立小・中学校へも押し広げられる予定だ。地道な「種まき」は、すでに次の季節を見据えている。中村助教は「来春、横浜で開催される国際園芸博覧会からいつでも声がけ頂けるよう、今年の題材を『花と放射線』とした」と確かな戦略を語る。



殿塚オフィスマネージャー(左)と中村助教



中村助教と殿塚氏による講演会

を築いた。今春にはNプロの活動拠点である大阪高等学校の新入生674名に対し、同領事館の殿塚ケント広報部オフィスマネージャーが米国の最新科学を紹介した。

科学を通じた国際的な対話の広がり、今後は高校生の手を経て、地域の6つの公立小・中学校へも押し広げられる予定だ。地道な「種まき」は、すでに次の季節を見据えている。中村助教は「来春、横浜で開催される国際園芸博覧会からいつでも声がけ頂けるよう、今年の題材を『花と放射線』とした」と確かな戦略を語る。

### 日本化学会新会長に

#### レゾナック会議長・森川宏平氏

日本化学会は5月25日、森川宏平会長(株)レゾナックホールディングス取締役会議長の就任記者会見を都内の化学会館において開催した。森川会長の任期は2年。



会見する森川宏平会長

森川会長の専門は有機化学で、東京大学工学部合成化学科を卒業後、昭和電工(株)(現・株)レゾナック・ホールディングス)に入社した。複数の事業部、事業部長を経験後、最高技術責任者、代表取締役社長を経て2022年に代表取締役会長に就任。現在は(株)レゾナック・ホールディングス取締役会議長や新化学技術推進協会会長等を務める。

森川会長は会見で「昨今、サプライチェーンの強靱化というのが様々な分野で求められているが、化学においても、川上にある『学問としての化学』から、川下である『産業としての化学』というケミストリーサプライチェーンを強靱化することが必要」と指摘。

「このケミストリーサプライチェーンの強靱化は、化学産業の強靱化につながり、日本の製造業をはじめ多くの産業の強靱化につながっていくはずだ。産学官の会員から構成されるケミストリー全体をカバーする日本化学会こそが、ケミストリーサプライチェーンの強靱化に大きく貢献できると信じている。ケミストリーサプライチェーンの強靱化を、私のこれからの2年間の抱負とした」と語った。